

# ( ご案内 )

ABC ENGLISH / Preschool

お子様の語学教育について興味をもたれておられる保護者の方が多くいらっしゃると思います。そこで、下記のような外国語教育についての記事がありましたので抜粋してご紹介したいと思います。詳しくは <http://www.sweetnet.com/bilingual.htm> をご参照ください。以下本文

## 一度獲得すれば消失しない発音

低学年の英語は現地にいる間はよくできていても日本へ帰ると跡形もなく消えてしまうということに関しても、それは英語の知識の面だけの問題であり、発音に関しては消失しない。赤ちゃんは生後数週間の間はすべての発音に関する可能性を持っているが、その後、身の回りにない発音に関しては、発声も聴覚的にもその能力が消失していくという。ただし年齢が低いほど発音の獲得に関する能力は高い。そして発音は一度獲得すれば消失はしない。そして、正確な発音ができるということはまた、その音を聞き取れるということでもある。日本語にない発音の中でも "th" の発音などは訓練しだいである程度カバーできるような気もするが、"R" と "L" の発音の違いなどは大人になってから獲得するのはそうとう難しいのではないかと思う。それ以上に日本語にない母音の発音、聞き取りに関しては大人には不可能なことに思われる。それができないからといって日本の学校ではなんら困りはしないし、できるからといってそれが受験に役立つわけではない。しかし将来国際社会で活躍することになれば、非常に価値のあることなのではないだろうか。

## バイリンガルとともに身につける柔軟性

そのほかにもバイリンガルも子供は思考の柔軟性、言葉の理解力などに関してモノリンガルの子供より優れているという報告がある。それに語学としてではなく自分の言語として言葉を身につけるということは、同時にその言葉を使う国の文化や考え方も理解しているということである。言葉と文化は密接に結びついている。これは単に学習を通してではなかなか理解できないことである。

## 親の母国語以外の言語を子どもに教える方法

( "A Parents' and Teachers' Guide to Bilingualism by Colin Baker" 参照 )

子どもが、外国語に触れる機会をできるだけ多く作ってあげる。

- 外国語をしゃべる子どもたちのプレーグループに入れる
- 夜、子どもに外国語の歌を歌ってやれるようにお母さんやお父さんも歌を覚える努力をする。
- 図書館で外国語の本を借りてきて読んであげる。
- 車の中で歌のテープを聞かせる、子どものための外国語のビデオを見せる。
- 一日に数個あなた自身が知らない単語を辞書で調べて覚える。文法書を復習する。
- あなた自身のために一日に少なくとも 1 ~ 2 分は本や雑誌を読む。その中で知らない単語があったらいつでも調べられるように辞書を常に傍らに置いておく。

- こどもとゲームをする。

たとえば、親が語学下手でも、あきらめることはない

母国語は家庭内で学び、外国語は家庭外で学ぶべきだという思い込みは間違っています。なぜならば、親自身の態度や興味、励ましが子どもの第二言語習得のさいに非常に大きな役割をになうからです。子どもが、第二言語をしゃべった時に大いにほめてやることは、子どもの自尊心を満たすために非常に大切なことです。しかしながら、ここで気をつけなければならないのは、親があまり熱心になり過ぎて、子どもをそのことで叱ったり、罰を与えたりするようになる親が出てくるということです。こうなると、子どもの創造性、探求心は失われ、防衛的になり、結局は、親子の争いに発展し、第二言語習得は著しく妨げられることとなります。

言葉の習得はインターアクティブ（相互に関わり合う）であることが重要

幼児に常に外国語のテレビを見せたり、テープを聞かせたりしたとしても、その幼児は外国語を話せるようにならないどころか理解できるようにもならないでしょう。このような受動的な外国語への接し方は、将来、外国語を学習するさいの学習能力を向上させるのに役立つかもしれませんが、実際にその言葉を使ってコミュニケーションを取れるようにするには、子どもがインターアクティブに外国語に関わらねばなりません。インターアクティブであればあるほど、学習効果があがります。

たとえば、母親がドイツ語で子どもに話しかけるけれども、子どもの話しかけに対しては、まったくドイツ語で応答してやらなかった場合、母親が積極的に子どもの話しかけに対して応答してやった子どもほどは上達しないでしょう。こどものコミュニケーションの能力を最大限に伸ばしてやるためには、親がインターアクティブに外国語を使う機会を可能な限り作ってやることです。たとえば、子どもに本を読んでやる時に、その本の内容について質問をしたりして積極的に参加させる努力をしましょう。遊んでいるときも、子どもの感情や、意見、興味をもちたてる努力をしましょう

小さい子どもは新しい言葉を学ぶことが大好き

今回、インタビュー - に応じてくださったのは、アメリカ在住10年のオ - ストリア人、インガボ - ルさんです。ご主人は、アメリカ人で、現在6才と2才のお子さんを育てるかたわら（二人ともドイツ語と英語のバイリンガル）、ニュ - ジャ - ジ - 州で語学学校を経営しています。さらに、現在、子供のバイリンガル教育に関する執筆活動も行っています。

Q . 外国語を習い始めるのは、何才位からが理想的だとお考えですか？

A . 幼稚園に入る前から、小学生低学年です。小さい子どもは、新しい言葉を学ぶことが大好きです。そして、それを、ほめてもらうことによって、子どもは更にやる気を起こし、次々と新しい言葉を覚え、会話することの楽しさを学んで行きます。早期外国語教育に成功例が多いのは、このように、子どもが言葉を学ぶこと自体に楽しさを見いだしている時期に始めるからなのです。小さい子どもにとって、外国語は、文法を分析したり、考えたり、舌をかんでしまうようなたぐいの学問ではなく、自然に楽しみながら吸収してしまうものなんです。

Q . 日本人の子が、まったく外国に住まずに、外国語がペラペラに話せるようになるには、どんなことをしなければならないのでしょうか。アドバイスをお願いします。

A . 既に、述べたように、早い時期に始めることです。もっと大切なことは、一つの語学を習得するには、膨大な年月を要しますので、子どもが途中で飽きてしまわないように、親は絶えず、子どものやる気を刺激する努力をすることです。実際に役に立つレベルの外国語を話せるようになる鍵は、根気よく継続することにつきます。

Q . 具体的に、学校、先生、語学教材などの選び方に関するアドバイスはありますか？

A . できるだけ小さい頃から、外国語のテレビやビデオを見せて、外国語が自然に耳に入るような環境作りをすることをお勧めします。そして、できれば、その言語を母国語とする人で、きちんと子どもの語学教育の知識と経験のある人ら、週に2回程度のレッスンを受けることでせう。とにかく、何度も繰り返すようですが、どんな方法を使うにしても、継続することが一番大切です。親が、強制せずに、自然に楽しく学べる環境を作ってあげれば、日本にいながらにして、外国語がペラペラになることも決して不可能なことではありません。私の学校にもアメリカ人の子どもたちがフランス語や、ドイツ語を習いに来ていますが、多くの子どもたちが流暢に話せるレベルにまでなっています。

Q . でも、あまり早い時期に外国語を教えると、母国語の方がおかしくなったりして、混乱をきたしたり、失語症になるケ - スがあるということを耳にしたことがありますか。

A . 私の経験では、そのようなことは、一切ありませんでした。文法的に混乱したりするのは大人の話です。小さい子どもは、たとえば、日本語のセンテンスに英語の単語を入れて、話したりすることがあるかもしれませんが、それは、混乱しているわけではなく、たまたま、適当な日本語の単語が見つからなかったので、知っている英語の単語を当てはめた、ということです。

語学以外のことで考えてみてください。何か新しいことを学んだからといって、前に学んだことを忘れてしまったり、障害を起こすことがあるのでしょうか。たとえば、音楽で言ったならば、トランペットの吹き方を学んだことでピアノの弾き方に混乱をきたしたりすることがあるのでしょうか。スポ - ツでも、野球を習ったことで、テニスができなくなるということがあるのでしょうか。

私の子どもたちは、生まれた時からドイツ語と英語で育てていますが文法的に混乱したことはありません。ただある日、突然、子どもを英語学校に放り込んだりした場合は、精神的なストレスとフラストレーションから、非常な混乱をきたす子が多いのは確かです。親は、それ以前に、準備段階として、テレビ、ビデオなどで、できるだけ英語に触れる機会を作ってあげるべきでしょう。 以上本文より